

アジア編:

成長市場になるか、APEJ 地域のシンクライアント

モビリティ促進やコスト削減が期待されるシンクライアント¹の導入が、注目を集めている。日本を除くアジア・太平洋 (APEJ) 地域では、情報セキュリティ市場拡大が見込まれており、その対策としても有効と考えられるシンクライアントに期待がかかる。

<APEJ 地域のシンクライアント市場>

調査会社 IDC が 6 月 11 日付で発表したところによると、APEJ 地域における 2007 年上半期のシンクライアント製品の出荷台数は、前年同期比 37.3% 増の約 28 万台で、売上高は 29.2% 増となった。同市場を牽引するオーストラリア、中国、インドは、地域全体の出荷台数の 86.4% を占めている。また、同地域のシンクライアント市場の規模は、2007~2012 年の間に年平均成長率 21.4% 増で大きく成長し、特に、中国 (同 22.1% 増) とインド (20.6% 増) が大きな伸びを見せると予測されている。

<注目される、シンクライアント市場>

企業の IT 管理者がシンクライアントを導入する理由は、いくつか挙げられている。例えば、シンクライアント製品を積極的に開発している Hewlett-Packard (HP) は、同製品をネット接続することによって遠隔操作が可能なことから、モビリティ環境に適していることを第一に挙げている。コスト削減も導入の主要因として挙げられており、大幅な総所有コスト (Total cost of ownership: TCO) の削減が可能とされている。環境面でも、シンクライアントの導入によって、25% 以上のコンピュータ消費電力の削減につながると調査会社 Forrester Research が 3 月 10 日付で報告している。これは、シンクライアント端末は従来の PC よりも搭載機能が限定されており、最小限の機能のみを使用することで、省エネにもつながるため。更に、従来のデスクトップ PC は、3~5 年で買い替えが必要とされてきたが、ハードウェアとソフトウェアを別々に管理することで、端末の使用期間を延ばすことができるとも言われている (6 月 19 日付 Linux Insider)。

<セキュリティ対策とシンクライアント市場>

この他、データをサーバー上に保存し、PC 端末に顧客データ等の重要な情報を保存する必要がないため、PC 紛失等による顧客情報漏えいなどの危険性を低下させ、情報セキュリティ対策に有効との利点もある (1 月 24 日付 InfoWorld 誌)。特に、APEJ 地域では、セキュリティ対策のニーズが高まっており、同地域のシンクライアント市場の伸びに影響すると考えられている。IDC が 2007 年 10 月 16 日に発表したところによると、同地域の情報セキュリティ・ソリューション市場は、2007~2011 年の年平均成長率が 15.5% で、2012 年には売上高が 59 億ドルに達すると見込まれている。更に、安価な端末モデルの入手が可能になったことやデスクトップからの買い替えが、この傾向に拍車をかけたと見られる。しかし、シンクライアントは、ネット接続されていない環境では利用できないなどの不利があり、特に、アジア新興地域は、インフラ整備などの課題解決が急がれている。

¹ 必要最低限の機能を搭載した PC 端末のことで、サーバ上にアプリケーションやファイルを保存、管理するシステム、または端末本体のことを示す。シンクライアント対し、従来の PC はファットクライアントと称されている。